

委 員 殿

(一社) 日本工作機械工業会

第 6 8 回技術委員会

議事録

1. 日 時：2026 年 7 月 22 日 (水) 13:30～16:30

2. 場 所：新日本工機株式会社 (株) 信太山工場

3. 出席者 (順不同、敬称略)

委員長 家城 淳 (オークマ)

副委員長 千田 治光 (オークマ) 小久保 光典 (芝浦機械)

井出 聡一郎 (ファナック) 岡田 聡 (ヤマザキマザック)

幹 事 納谷 敏明 (ジェイテクト) (代)山本 雄介 (DMG 森精機)

大久保 弘 (ニデックオーケー) 白石 治幸 (牧野フライス製作所)

委 員 野口 広和 (アマダ) 山田 雅人 (エヌ・エス・エス)

吉田 裕 (岡本工作機械製作所) 森 茂樹 (カシフジ)

(代)上村 悠貴 (唐津プレジジョン) 棚田 敏久 (キタムラ機械)

小泉 哲 (C&G システムズ) 松丸 肇 (シチズンマシナリー)

小島 学 (新日本工機) 篠宮 克宏 (スター精密)

山脇 研郎 (住友精密工業) 柳沢 浩太 (ソフィックス)

内田 安彦 (大昭和精機) 杉浦 均 (大日金属工業)

山野 真 (高松機械工業) 酒井 輝夫 (武田機械)

丸山 聡 (東京精機) 小川 毅 (東洋精機工業)

飯田 稔 (野村 D S) 三輪 東耶 (ハイマージャパン)

長戸 一義 (F U J I) 濱澤 史郎 (富士電子工業)

石橋 伸晃 (ブラザー工業) 池田 邦弘 (ホーコス)

加納 健司 (三菱電機) 松野 修 (村田機械)

大下 功 (安田工業) 天野 知典 (篠々スマートテクノロジー)

オブザーバ 野坂 耕一 (ハイマージャパン)

事務局 笹川 哲平 高野 晋一 三浦 一太

以上 41 名

4. 配布資料

No.1 前回議事録

No.2-1 技術委員会組織図

No.2-2 技術委員会タイムスケジュール

No.3 研究開発部会 2025 年度活動報告・2026 年度活動計画（案）

資料 3-1 2025 年度第 1 回技術動向調査報告会（8 月 5 日）アンケート結果

資料 3-2 2025 年度第 2 回技術動向調査報告会（12 月 17 日）アンケート結果

資料 3-3 『新版 工作機械の設計学（応用編）』改訂点・目次

資料 3-4 工作機械関連日米特許リストの生成 AI 活用事例について（試験版）

資料 3-5 知的財産調査専門委員会活動報告会 報告資料

資料 3-6 知的財産調査専門委員会活動報告会アンケート結果

資料 3-7 IMEC2026 開催概要（案）

資料 3-8 工作機械の高度人材確保・育成に関する調査研究 プレ会合検討事項

No.4 標準化部会 2025 年度活動報告及び 2026 年度活動計画（案）

資料 4-1 第 95 回 ISO/TC39/SC2 国際会議報告

資料 4-2 ISO-TC 39-SC 2_N3245_Minutes_96th_Meeting_virtual_2025-11-04_06

資料 4-3 第 33 回 ISO/TC184/SC1、第 27 回 ISO/TC184/SC1/WG7、
第 6 回 ISO/TC184/SC1/WG10、第 15 回 ISO/TC184/SC1/WG11
国際会議報告

資料 4-4 欧州機械規則ガイドライン（暫定版）

資料 4-5 インド BIS 認証制度に関する要望レター（最終確認版）

資料 4-6 インド官報（2025 年 11 月 13 日付）

資料 4-7 インド官報（2026 年 1 月 14 日付）

資料 4-8 工場関連 IoT 製品における JC-STAR 活用検討会（仮）について

資料 4-9 ISO-TC39-WG12 海外出張（2026 年 3 月）報告書

5. 議 事

議事に先立ち、家城委員長より、技術委員会の会場提供および工場見学にご協力いただいた新日本工機(株)への謝辞とともに開会挨拶が述べられた。引き続き井出副委員長の進行により議事に入った。

イ. 各部会 2025 年度活動報告・2026 年度活動計画（案）

研究開発、標準化の各部会長より、2025 年度活動報告・2026 年度活動計画（案）について報告・説明があった。

（１）研究開発部会（千田部会長）

資料 No.3 に基づき、2025 年度活動として実施した、「①技術動向調査活動報告会」、「②工作機械の設計学（応用編）改定委員会」、「③知的財産調査専門委員会」、「④IMEC（国際工作機械技術者会議）運営委員会」の各専門委員会の活動報告があった。

引き続き、2026 年度活動計画として、2025 年度をもって「工作機械の設計学（応用編）改定委員会」については活動を終了し、2026 年度より新規に「高度人材確保・育成に関する調査研究委員会」の活動を開始、その他の事業は継続する旨、説明があり、研究開発部会の 2025 年度活動報告及び 2026 年度活動計画（案）について、異議なく了承された。

（２）標準化部会（岡田部会長）

資料 No.4 に基づき、2025 年度の活動として「①機械規格専門委員会」、「②制御規格専門委員会」、「③電気・安全規格専門委員会」、「④環境負荷調査専門委員会」「⑤EMC 規格専門委員会」の 5 つの専門委員会とその傘下の 18 の分科会及び JIS 原案作成委員会の活動について、報告が行われた。

引き続き、2026 年度の活動計画として、2025 年度の活動を継続する旨、説明があり、標準化部会の 2025 年度活動報告及び 2026 年度活動計画（案）について、異議なく了承された。

Q：環境負荷調査専門委員会で取り組んでいる ISO 25627（工作機械のカーボンフットプリント評価に関する製品カテゴリールール）の議論において、「ゆりかご（cradle）から墓場（grave）まで」となっていた、ということだが、“墓場まで”になると、スコープ 3 に当たる“使用”段階が大勢を占めるため、非常に使いにくくなると思われるが、現状は含まれているのか。

A：本規格の提案段階では、“出荷（gate）”までだったが、WD 投票時のドラフトでは“墓場まで”になっていた。WD 投票時のドラフトでは使用段階での算出方法も 25 年使用と非常に長くなっており、カーボンフットプリント（CFP）全体をほぼ使用段階が占めることになるので、“出荷（gate）”までが本規格の範囲ではないかとのコメントを日本から提出し、受け入れられ、CD 段階では修正されている。

ロ．その他

（１）事務局からの諸連絡

今後の工場見学のスケジュールについて説明があり、閉会した。

（２）工場見学

技術委員会終了後、新日本工機(株)の会社説明が行われ、3 班に分かれて①第一工場（大形工作機械製造・組立）及び②第三工場（機械展示、中形工作機械製造・組立）、③第二工場（要素部品・電装品製造・組立）の見学を行った。

以上